

平成31年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 文学部人文学科 〕

プログラムの名称（和文）	地理学・考古学・文化財学プログラム
（英文）	Geography, Archaeology, and Cultural Heritage
1. 取得できる学位 学士（文学）	
2. 概要 <p>地理学・考古学・文化財学プログラムでは、人類が創り上げた遺産を、諸環境要素と有機的に関連付けて、多様な地表圏文化を学際的・総合的に把握することができる人材を育成するための教育を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学では、人文地理学、自然地理学、地理情報システム学、及び地誌学についての学識を得ることができます。 ・考古学では、日本考古学、アジア考古学の研究と教育、遺跡の発掘調査、野外実習などについての学識を得ることができます。 ・文化財学では、日本・東洋の美術（絵画・彫刻・書蹟）、工芸（金工・漆工・染織・陶磁・武器・武具）などについての学識を得ることができます。 	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） <p>文学部は、「主として人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性的人材を養成すること」を教育の根本理念として掲げています。そして、この理念を具体化するために、「伝統的研究の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化すること、新たな研究領域や学際的領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進すること、現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究を活性化すること、外国語の運用能力を高めるとともに、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につけること、絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養うこと、人類の歴史を学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培うこと」という教育目標を定めています。</p> <p>本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地理学、考古学、文化財学について幅広い知識を修得し、基礎的理解を養う。 (2) 地理学、考古学、文化財学のいずれか一つの専門分野を中心に方法論を修得し、専門領域における基礎的研究能力を養う。 (3) 新たな研究領域や学際領域を積極的に開拓するために、幅広い基礎学力と専門知識を修得する。 <p>この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。 (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間、文化、歴史、環境について深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。 	

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、地理学・考古学・文化財学の歴史及び各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門講義、専門実習、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

5. プログラム・専門分野の開始時期・受入条件

開始時期：2年次から

受入条件：学生の志望を尊重しつつ、入学後の履修状況を参考に、第1年次末に次の方法で審査決定します。

ただし、A0入試総合評価方式Ⅲ型により入学した学生は、受験したプログラムへ配属されます。

(1) 志望届の提出

1年次の2月5日までに教育プログラム・専門分野志望届と志望理由書を提出します。

(2) 受入審査の方法は原則として次によります。

- ・志望者が受入目安数内の場合：学生の志望どおり受け入れます。
- ・志望者が受入目安数を超えた場合：学業成績上位者から受入目安数までを受け入れます。

受け入れられなかった学生は下位の志望先にて、受入目安数の範囲内で受け入れます。ただし、上位で志望した者が優先されます。

6. 取得可能な資格

- ・中学校教員一種免許状（国語，社会，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・高等学校教員一種免許状（国語，地理歴史，公民，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・学芸員となる資格

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示します。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」, 「優秀(Very Good)」, 「良好(Good)」の3段階で示します。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80~89点)	3
B (良 : 70~79点)	2
C (可 : 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00~4.00
優秀 (Very Good)	2.00~2.99
良好 (Good)	1.00~1.99

本プログラムにおける学習成果の評価法についての詳細は、

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照。

※別紙4のカリキュラムマップを参照。

9. 卒業論文 (卒業研究) (位置づけ, 配属時期と方法)

○位置付け

卒業論文は、本プログラムの到達点と位置付け、卒業論文指導4単位、卒業論文8単位を必修とします。本プログラムでの学習成果を集大成し、自己の学習の到達水準を見極め、卒業後の更なる発展を促すことを目的とします。

○配属時期と作成方法

4年次前期に、各自が設定した研究テーマに基づいて卒業論文指導教員を定め、当該教員の指導を受けて10月末に題目を、1月末に論文を提出します。

10. 責任体制

PDC A責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は、地理学・考古学・文化財学プログラム教員会が責任を持って行います。プログラム外からの評価検討・対処は、全学の教育質保証委員会が行います。

別表（細則第4条第3項関係）

文学部教育課程

卒業要件単位数 124単位（教養教育科目40単位，専門教育科目84単位）

教養教育科目

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	標準履修 (注1)						
							1年次						
							1セメ		2セメ				
							1T	2T	3T	4T			
教養教育	平和科目		2		2	選択必修		○					
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○						
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修		○					
	共通科目	領域科目		26	(注2)	2	選択必修	○	○	○	○		
		外国語科目	英語 (注3)	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	○	○			
				コミュニケーション基礎Ⅱ		1				○	○		
			英語 (注4)	コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅠA	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○	○		
					コミュニケーションⅠB		1	○		○			
				コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅡA		1				○	○	
					コミュニケーションⅡB		1				○	○	
			上記4科目のうちから2科目以上										
			初修外国語 (注5)	ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，アラビア語のうちから1言語選択	ベーシック外国語Ⅰ	4	ベーシック外国語Ⅰ	1	必修	○			
					ベーシック外国語Ⅱ		1			○			
					ベーシック外国語Ⅲ		1				○		
		ベーシック外国語Ⅳ			1						○		
		(0)		インテンシブ外国語Ⅰ	1	自由選択	○	○	○	○			
				インテンシブ外国語Ⅱ	1		○	○	○	○			
情報科目		(0)	(注2) (注3) (注6)	2	自由選択		○						
健康スポーツ科目		(0)	(注2) (注3)	1又は2	自由選択	○	○	○	○				
社会連携科目		(0)	(注3)	1又は2	自由選択	○	○	○	○				
基盤科目		(0)	(注3)	1～3	自由選択	○	○	○	○				
計			40										

注1：○印は標準履修時期を表している。なお，当該ターム（またはセメスター）で単位を修得できなかった場合は，これ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するターム（またはセメスター）が異なる場合があるので，毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。なお，表中ではタームは「T」と表記する。

注2：自然科学系科目群から2科目4単位以上及び人文社会科学系科目群から2科目4単位以上を選択履修すること。教育職員免許状を取得する場合は，領域科目「日本国憲法」2単位，情報科目2単位及び健康スポーツ科目2単位を修得すること。詳細は，専門「教育職員免許状の取得について」を参照すること。

注3：コミュニケーション基礎，情報科目，健康スポーツ科目，社会連携科目または基盤科目を履修した場合は，領域科目を履修したものとみなす。

注4：英語の履修については，外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は，教養「外国語技能検定試験等による単位認定の取り扱いについて」を参照すること。

注5：英語以外の外国語をさらに深く学びたい学生は，インテンシブ外国語Ⅰ・Ⅱを履修するのが望ましい。インテンシブ外国語は2単位まで領域科目を履修したものとみなす。

注6：情報科目の履修については，2ターム開講の「情報活用基礎」を履修することが望ましい。なお，「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は，以後の「情報活用演習」を履修することができる。

専門教育科目

地理学・考古学・文化財学プログラム

区分	授業科目	開設期	単位	履修区分	備 考
専門基礎科目 30単位	入門科目 (16分野の入門科目の中から)	2	2	選択必修	超過分の単位は、4単位まで自由選択科目の単位とすることができる。
	英語	3・4	2	必修	文学部提供教育プログラム 共通科目群のもの。
	人文学概説	3・4			
	自由選択科目	1-8	26	選択必修	文学部・他学部の専門教育科目及びセンター等開設科目から選択すること。
専門科目 42単位	専門講義 [地理学分野] [考古学分野] [文化財学分野] の概説・研究法の科目	3-6	22	選択必修	各人の志望する分野の専門科目を30単位以上履修すること。
	専門実習・専門演習 [地理学分野] [考古学分野] [文化財学分野] の実習実験，基礎演習，発展演習，特別演習の科目	3-8	20	選択必修	
卒業論文科目 12単位	卒業論文指導A，B	7・8	4	必修	
	卒業論文	8	8	必修	
合計			84		

専門教育科目一覧

地理学・考古学・文化財学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	
地理学	専門基礎科目	入門科目	BH0010	地理学入門	2	2	1	講義	
			専門科目	専門講義	概説・研究法	BH2000	地理学概論A	2	2
	BH2010	地理学概論B	2			2	2	講義	
	BH2020	人文地理学概論	2			2	2	講義	
	BH2030	自然地理学概論	2			2	2	講義	
	BH2040	国土空間論（地理学）	2			2	3	講義	
	BH2050	社会経済地域論（地理学）	2			2	3	講義	
	BH2060	地表変動論	2			2	3	講義	
	BH2070	地域学A（地誌学）	2			2	3	講義	
	BH2080	地域学B（地誌学）	2			2	3	講義	
	BH2090	地理情報システム学	2			2	3	講義	
	ASF050	ヨーロッパ環境地誌*	2			2	2	講義	
	ASF090	日本環境地誌*	2			2	2	講義	
	BH2121	地理学特論A	2			2	2	講義	
	BH2131	地理学特論B	2			2	2	講義	
	BH2140	地理学特論C	2			2	2	講義	
	専門科目	実習実験	BH3000	人文地理学情報処理実習	1	1	2	実習	
			BH3010	自然地理学実験	1	1	2	実験	
			BH3020	地理学野外実験	1	1	3	実験	
			BH3030	地理情報システム学実習	1	1	2	実習	
		基礎演習	BH4020	自然地域システム論演習A	2	2	3	演習	
			BH4040	自然地域システム論演習B	2	2	3	演習	
			BH4050	地理学野外演習	2	2	3	演習	
			ASF120	日本地誌研究演習*	2	2	3	演習	
			ASF180	ヨーロッパ地誌研究演習*	2	2	2	演習	
			BH4080	人文地理学基礎演習	2	2	3	演習	
			BH4090	地域調査法演習	2	2	3	演習	
		発展演習	BH5000	地理学研究法演習A	2	2	3	演習	
			BH5010	地理学研究法演習B	2	2	4	演習	
			BH5020	地理学研究法演習C	2	2	4	演習	
		特別演習	BH6000	地理学特別演習A	2	2	4	演習	
	BH6010		地理学特別演習B	2	2	4	演習		
考古学	専門基礎科目	入門科目	BI0010	考古学入門	2	2	1	講義	
			専門科目	専門講義	概説・研究法	BI2000	考古学基礎論A	2	2
	BI2010	考古学基礎論B	2			2	2	講義	
	BI2020	考古学概説	2			2	2	講義	
	BI2030	日本考古学研究A	2			2	2	講義	
	BI2040	日本考古学研究B	2			2	2	講義	
	BI2050	日本考古学研究C	2			2	2	講義	
	BI2060	日本考古学研究D	2			2	2	講義	
	BI2070	アジア考古学研究A	2			2	2	講義	
	BI2080	アジア考古学研究B	2			2	2	講義	
	BI2090	考古学特別研究A	2			2	2	講義	
	BI2100	考古学特別研究B	2			2	2	講義	
	専門実習・専門演習	実習実験	BI3000			考古学基礎実習A	1	1	2
			BI3010	考古学基礎実習B	1	1	2	実習	
			BI3020	考古学基礎実習C	1	1	3	実習	
			BI3030	考古学基礎実習D	1	1	3	実習	

専門教育科目一覧

地理学・考古学・文化財学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	
考古学	専門科目	専門実習・専門演習	実習実験	BI3040	野外考古学実習A	1	1	2	実習
				BI3050	野外考古学実習B	1	1	3	実習
				BI3060	野外考古学実習C	1	1	3	実習
			基礎演習	BI4000	比較考古学演習A	2	2	2	演習
				BI4010	比較考古学演習B	2	2	2	演習
				BI4020	遺跡・遺物論演習A	2	2	3	演習
				BI4030	遺跡・遺物論演習B	2	2	3	演習
			発展演習	BI5000	考古学発展演習A	2	2	3	演習
				BI5010	考古学発展演習B	2	2	3	演習
			特別演習	BI6000	考古学特別演習A	2	2	4	演習
BI6010	考古学特別演習B	2		2	4	演習			
文化財学	専門基礎科目		入門科目	BJ0010	文化財学入門	2	2	1	講義
	専門科目	専門講義	概説・研究法	BJ2000	日本美術史学基礎研究	2	2	2	講義
				BJ2010	日本美術史学応用研究	2	2	2	講義
				BJ2020	東洋美術史学基礎研究	2	2	2	講義
				BJ2030	東洋美術史学応用研究	2	2	2	講義
				BJ2040	日本工芸史学基礎研究	2	2	2	講義
				BJ2050	日本工芸史学応用研究	2	2	2	講義
				BJ2060	東洋工芸史学基礎研究	2	2	2	講義
				BJ2070	東洋工芸史学応用研究	2	2	2	講義
				BJ2080	社寺建築学研究	2	2	2	講義
				BJ2090	日本住宅史研究	2	2	2	講義
				BJ2100	城郭研究	2	2	2	講義
				BJ2110	文化財保存学研究	2	2	2	講義
				BJ2120	総合文化財学基礎研究	2	2	2	講義
				BJ2130	総合文化財学応用研究	2	2	2	講義
	専門科目	実習実験	BJ3001	文化財学基礎実習Ⅰ	1	1	2	実習	
			BJ3011	文化財学基礎実習Ⅱ	1	1	2	実習	
			BJ3021	文化財学発展実習Ⅰ	1	1	3	実習	
			BJ3031	文化財学発展実習Ⅱ	1	1	3	実習	
		基礎演習	BJ4001	文化財学基礎演習AⅠ	2	2	2	演習	
			BJ4011	文化財学基礎演習AⅡ	2	2	2	演習	
			BJ4021	文化財学基礎演習BⅠ	2	2	2	演習	
			BJ4031	文化財学基礎演習BⅡ	2	2	2	演習	
		発展演習	BJ5001	文化財学発展演習AⅠ	2	2	3	演習	
			BJ5011	文化財学発展演習AⅡ	2	2	3	演習	
			BJ5021	文化財学発展演習BⅠ	2	2	3	演習	
			BJ5031	文化財学発展演習BⅡ	2	2	3	演習	
		特別演習	BJ6001	文化財学特別演習AⅠ	2	2	4	演習	
			BJ6011	文化財学特別演習AⅡ	2	2	4	演習	
			BJ6021	文化財学特別演習BⅠ	2	2	4	演習	
BJ6031			文化財学特別演習BⅡ	2	2	4	演習		
共通	卒業論文科目		BX3100	卒業論文指導A	2	2	4	演習	
	BX3200	卒業論文指導B	2	2	4	演習			
	BX3500	卒業論文	8	8	4	演習			

*は総合科学部開設科目

地理学・考古学・文化財学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

別紙2

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 課題を学際的・総合的にとらえる広い視野の習得	諸課題をいろいろな視点から考え的確に理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考え理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考えることができる。
	(2) 地理学、考古学または文化財学に関する基本的理解	当該専門分野に関する基本的事項を十分に理解しており、より発展的な理解も可能である。	当該専門分野に関する基本的事項を十分に理解している。	当該専門分野に関する基本的な理解ができている。
	(3) 地理学、考古学または文化財学に関する基礎的知識の習得	当該専門分野に関する基礎的知識を十分に習得しており、それらを研究に的確に応用できる。	当該専門分野に関する基礎的知識を習得しており、それらを活かして研究をおこなうことができる。	当該専門分野に関する基礎的知識を習得している。
能力・技能	(1) 知的活動の基本となるスキルの習得	専門的な知識を習得するための基本的スキルを十分に活用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを応用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを使うことができる。
	(2) 地理学、考古学または文化財学に関する文献読解力の習得	当該専門分野の基本的文献を的確に読解ことができ、自己の研究において発展的な応用ができる。	当該専門分野の基本的文献を的確に読解ことができ、自己の研究に十分に応用できる。	当該専門分野の基本的文献を読解ことができ、自己の研究に応用できる。
	(3) 地理学、考古学または文化財学に関する調査能力の習得	当該専門分野の基本的な調査能力を十分に習得しており、自己の研究において発展的な応用ができる。	当該専門分野の基本的な調査能力を習得しており、自己の研究に十分に応用できる。	当該専門分野の基本的な調査能力を習得しており、自己の研究に応用できる。
	(4) 地理学、考古学または文化財学に関する研究方法の習得	当該専門分野の研究方法を十分に習得しており、自己の研究に的確に応用し、独自の研究を展開できる。	当該専門分野の研究方法を習得しており、自己の研究に的確に応用することができる。	当該専門分野の研究方法を習得しており、自己の研究に応用できる。
総合的な力	(1) 実地・実物調査、フィールド調査、実験的手法により、事物や現象を把握し分析する能力の習得	当該専門分野の研究対象となる実物資料、フィールドデータなどを的確に把握して記載ことができ、それらの検討、分析によりその特徴を十分に明らかにする能力をもつ。	当該専門分野の研究対象となる実物資料、フィールドデータなどを的確に把握して記載ことができ、それらの検討、分析によりその特徴を明らかにする能力をもつ。	当該専門分野の研究対象となる実物資料、フィールドデータなどを把握して記載ことができ、それらを検討、分析することができる。
	(2) 測量・製図機器、映像機器、コンピューターなどの操作能力、基礎的な情報処理や視覚的表現能力の習得	当該専門分野の研究機材、機器を的確に使用ことができ、研究対象を効果的に資料化、データ化し、研究材料として十分に適用できる能力をもつ。	当該専門分野の研究機材、機器を的確に使用ことができ、研究対象を効果的に資料化、データ化し、研究材料として適用できる能力をもつ。	当該専門分野の研究機材、機器を使用することができ、研究対象を資料化、データ化し、研究材料として適用することができる。
	(3) 研究の成果や自己の考えを論理的に整理し発表できる能力の習得	論理的思考能力を十分に身につけており、研究の成果や自己の考えを論理的かつ的確に整理して発表できる。	論理的思考能力を十分に身につけており、研究の成果や自己の考えを論理的に整理して発表できる。	論理的思考能力を身につけており、研究の成果や自己の考えを論理的に整理して発表できる。
	(4) 研究課題を設定し、問題を解決する能力の習得	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決する能力を十分に習得し、発展させている。	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決する能力を十分に習得している。	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決する能力を習得している。
	(5) 研究活動を通じて、他者と交渉する能力やコミュニケーション能力の習得	野外での活動やゼミでの発表を通じて、他者と交渉する能力やコミュニケーションの能力を十分に備え、発展させている。	野外での活動やゼミでの発表を通じて、他者と交渉する能力やコミュニケーションの能力を十分に備えている。	野外での活動やゼミでの発表を通じて、他者と交渉する能力やコミュニケーションの能力を備えている。
	(6) 地域や文化のあり方を、専門的に理解する能力の習得	4年間の学生生活を通して、地域や文化のあり方を、専門的に深く理解する能力を身につけ、発展させている。	4年間の学生生活を通して、地域や文化のあり方を、専門的に深く理解する能力を身につけている。	4年間の学生生活を通して、地域や文化のあり方を、専門的に理解する能力を身につけている。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門領域における研究を行うために必要な基礎学力を身につけるとともに、さまざまな分野の研究の方法・成果・課題を学習して、専門研究に活用できる独創的な視点を養う。

地理学・考古学・文化財学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(1) 課題を学際的・総合的 にとらえる広い視野の 習得	(2T) 教養ゼミ (◎)							
	(1T) 大学教育入門 (◎)							
	(2T) 平和科目 (○)							
	領域科目 (○)							
(2) 地理学、考古学または 文化財学に関する基本 的理解		(3T) 地理学入門 (○)	(1T) 地理学概論A (○)	(4T) 人文地理学概論 (○)				
		(3T) 考古学入門 (○)	(2T) 地理学概論B (○)	(3T) 自然地理学概論 (○)				
		(4T) 文化財学入門 (○)						
(3) 地理学、考古学または 文化財学に関する基礎 的知識の習得		(3T) 地理学入門 (○)	ヨーロッパ環境地誌 (○)	(3T) 日本環境地誌 (○)	(1T) 国土空間論(地理学) (○)	(4T) 社会経済地域論(地理学) (○)		
			(1T) 考古学概説 (○)	東洋工芸史学基礎研究 (○)	(2T) 地域学B(地誌学) (○)	(4T) 地表変動論 (○)		
			(2T) 日本美術史学基礎研究 (○)	城郭研究 (○)		(3T) 地域学A(地誌学) (○)		
			(2T) 東洋美術史学基礎研究 (○)	総合文化財学基礎研究 (○)				
			(2T) 日本工芸史学基礎研究 (○)					
			社寺建築学研究 (○)					
(1) 知的活動の基本となる スキルの習得	コミュニケーション I (◎)	コミュニケーション II (◎)						
	ベーシック外国語 (○)							
			(2T) 比較考古学演習A (○)	(4T) ヨーロッパ地誌研究演習 (○)	自然地域システム論演習A (○)	自然地域システム論演習B (○)		
			日本工芸史学応用研究 (○)	(4T) 比較考古学演習B (○)	(1T) 日本地誌研究演習 (○)	地域調査法演習 (○)		
				(4T) 日本美術史学応用研究 (○)	人文地理学基礎演習 (○)	(4T) 遺跡・遺物論演習B (○)		
				(4T) 東洋美術史学応用研究 (○)	(2T) 遺跡・遺物論演習A (○)			
				(4T) 東洋工芸史学応用研究 (○)				
				日本住宅史研究 (○)				
				文化財保存学研究 (○)				
				総合文化財学応用研究 (○)				
	(2) 地理学、考古学または 文化財学に関する文献 読解力の習得			(2T) 考古学基礎論A (○)	(4T) 地理情報システム学実習 (○)	(1T) 地理情報システム学 (○)		
				(2T) 文化財学基礎演習A I (○)	(4T) 考古学基礎論B (○)	地理学野外実験 (○)		
			(2T) 文化財学基礎演習A II (○)					
			(2T) 文化財学基礎演習B I (○)					
			(2T) 文化財学基礎演習B II (○)					
(3) 地理学、考古学または 文化財学に関する調査 能力の習得		(3T) 地理学入門 (○)	地理学特論A (○)	(3T) 日本考古学研究B (○)	(1T) 地理情報システム学 (○)	地理学野外演習 (○)		
			地理学特論B (○)	(4T) 日本考古学研究D (○)		地理学研究法演習A (○)		
			地理学特論C (○)	(3T) アジア考古学研究B (○)		(4T) 文化財学発展演習A I (○)		
			(1T) 日本考古学研究A (○)	考古学特別研究A (○)		(4T) 文化財学発展演習A II (○)		
			(2T) 日本考古学研究C (○)	(3T) 考古学特別研究B (○)		(4T) 文化財学発展演習B I (○)		
			(1T) アジア考古学研究A (○)			文化財学発展演習B II (○)		
(4) 地理学、考古学または 文化財学に関する研究 方法の習得								

地理学・考古学・文化財学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合的な 力	(1) 実地・実物調査、フィールド調査、実験的手法により、事物や現象を把握し分析する能力の習得		(2T) 人文地理学情報処理実習 (○)	(3T) 自然地理学実験 (○)	野外考古学実習B (○)			
	(2) 測量・製図機器、映像機器、コンピューターなどの操作能力、基礎的な情報処理や視覚的表現能力の習得		(2T) 人文地理学情報処理実習 (○)	(3T) 自然地理学実験 (○)	地理学野外実験 (○)	(3T) 考古学基礎実習D (○)		
	(3) 研究の成果や自己の考えを論理的に整理し発表できる能力の習得		(2T) 考古学基礎実習A (○)	(4T) 地理情報システム学実習 (○)	(1T) 考古学基礎実習C (○)	文化財学発展実習Ⅱ (○)		
	(4) 研究課題を設定し、問題を解決する能力の習得			(4T) 考古学基礎実習B (○)	文化財学発展実習Ⅰ (○)			
	(5) 研究活動を通じて、他者と交渉する能力やコミュニケーション能力の習得				(2T) 考古学発展演習A (○)	地理学野外演習 (○)	地理学研究法演習B (○)	地理学研究法演習C (○)
	(6) 地域や文化のあり方を、専門的に理解する能力の習得					(3T) 考古学発展演習B (○)	(2T) 考古学特別演習A (○)	(3T) 考古学特別演習B (○)
						(2T) 文化財学特別演習AⅠ (○)	(4T) 文化財学特別演習AⅡ (○)	
						(2T) 文化財学特別演習BⅠ (○)	(4T) 文化財学特別演習BⅡ (○)	
						卒業論文指導A (◎)		
					野外考古学実習C (○)	地理学研究法演習B (○)	地理学研究法演習C (○)	
						地理学特別演習A (○)	地理学特別演習B (○)	
							卒業論文指導B (◎)	
							卒業論文 (◎)	

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。
 第1ターム:1T 第2ターム:2T 第3ターム:3T 第4ターム:4T
 (例)第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーション1

地理学・考古学・文化財学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線	研究室	メールアドレス
安嶋紀昭	教授	6618	A263	ajima@hiroshima-u.ac.jp
奥村晃史	教授	6657	A351	kojiok@hiroshima-u.ac.jp
竹広文明	教授	6628	A659	takehiro@hiroshima-u.ac.jp
友澤和夫	教授	6654	A354	tomozawa@hiroshima-u.ac.jp
野島永	教授	6660	A251	nojima@hiroshima-u.ac.jp
有松唯	准教授	6662	A252	yarima@hiroshima-u.ac.jp
伊藤奈保子	准教授	6661	A261	itona@hiroshima-u.ac.jp
後藤拓也	准教授	6655	A353	gtakuya@hiroshima-u.ac.jp
後藤秀昭	准教授	6658	A352	hgoto@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-内線番号4桁」とすれば直通電話となります。